

美術科学習指導案

日時 平成26年5月30日（金）第2校時

対象 1年5組（男子20名 女子20名 計40名）

指導者 教諭 濱川 達一

1 題材 1年 平面構成による抽象表現

2 題材名 「色や形で奏でるメロディー」

3 題材設定の理由

(1) 題材観

近年、あらゆる分野において、問題解決のトレーニングや学びと創造の手法としてワークショップが注目され、様々な実践が行われている。ワークショップとは、様々な人たちが参加し、互いの思いやアイデアを通じて新しい創造と学習を生み出す場のことである。美術の分野においては、アーティストによるワークショップが各地で開催され、活動を通して参加者同士の交流が行われている。このような美術のワークショップは、幼児からお年寄りまで幅広い層の方が参加することができ人気がある。このことは、美術の活動が、年齢や性別を問わず楽しむことができ、様々な人々とコミュニケーションを図るための有効な手段になるということを示している。

美術の学習においては、中学校美術の学習指導要領解説の「内容の取扱い」の中で、生徒が共同で創造活動をできる機会や場を設け、適切な時期に、共同で行う創作活動を経験させる必要があることが示されており、小グループや集団の中で議論しながら、個々の知識を活用し、共に学び合う学習形態の必要性も示唆されている。

本題材「色や形で奏でよう」は、演奏されるメロディーを聴き、感じたことや思い浮かんだことを「色」や「形」で抽象的に表現し、それをグループでひとつの作品に構成することで色と形で楽譜をつくるという表現題材である。また、メロディーという目に見えない対象を基にして、互いのイメージや意図を伝え合いながら作品をつくり上げていくという協働による学習の要素も含んでいる。

中学生というこの時期においては、写実的な表現に憧れをもつ一方、苦手意識をもちやすい時期である。しかし、抽象的な表現では、色や形そのもので感情的な表現をさせるため、絵に対して苦手意識をもち始めている生徒にとって抵抗感が少ない。また、材料には色画用紙を使用するので、切ったり破いたり扱いやすく、浮かんだイメージを短時間で表現することができる。そして、この作品は、具体的な形をもたないので、互いのイメージを相手に伝えたり、相手から感じ取ったりしなければならないため、コミュニケーションを必要とする場を自然な形で設定することができる題材である。

これらの学習を通して、自分なりの感じ方や表現を大切にしながら、友達とのコミュニケーション

ンを通して発想を拡げ、共につくることの楽しさを味わわせることを目指し、本題材を設定した。

(2) 指導観

本題材では、色や形のないメロディーを抽象的に表現することを通して、色や形のもつ感情を理解させるとともに、互いの個性を生かし合い協力してつくる楽しさや喜びを味わわせることを目指している。

題材の導入場面では、参考のメロディーを聴かせ、感じたことについて自由に意見を言わせ、教師と対話しながら感じたイメージを具体化させる。この学習過程を通して、色や形のもつ感情に気づかせるような指導にありたい。

学習課題の提示場面では、音楽の授業でつくったメロディーを各グループで演奏させ、全体像をイメージさせてから、制作に取り組みさせる。また、自分の作品が、グループの作品の一部になるということを意識させるとともに、自分の表現意図を考えながら制作することができるようにしたい。

制作の場面においては、各グループで自由にメロディーを演奏できるようにし、発想の拡がりを促すようにする。また、色とりどりの画用紙を豊富に揃え、発想したことをすぐに何度も試しながら制作できるようにすることで、発想を拡げることができるようにする。

協働での制作の場面においては、それぞれの作品を並べ、ひとつの作品として捉えさせ、メロディー全体のイメージと照らし合わせながら意見を交わし、互いの作品のよさを生かしながらひとつの作品へとまとめさせる。この学習過程を通して、自他の感じ方の違いや表現方法の違いに気づくとともに、よりよい作品へとまとめていくための知的コミュニケーションを活性化させるような指導にありたい。

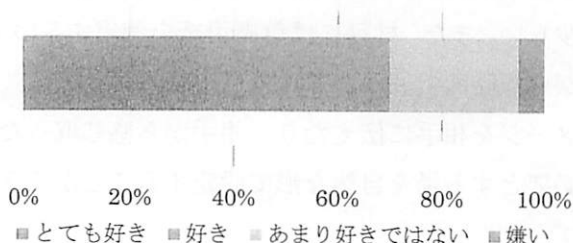
他グループとの交流の場面においては、グループのリーダーがメロディーを演奏し、その他の生徒に他グループの作品を鑑賞させることで、作品への発想を更に拡げ、構想が深まるようにする。

本題材の作品づくりでは、互いの表現に対して自由に意見ができるような雰囲気づくりと頭に浮かんだイメージを即座に表現できる環境づくりが必要である。楽しい雰囲気の中で意見を交わし、試行錯誤する中で生まれる新しい発想を引き出せるような指導にありたい。

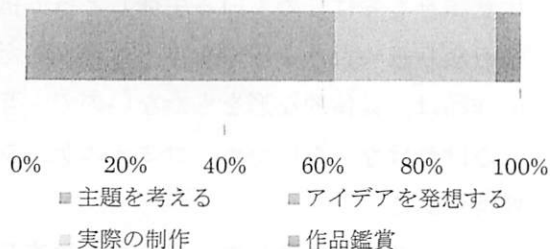
(3) 生徒の実態

本時の指導に先立ちアンケート調査を行った結果を示す。(対象は附属中学校1年5組40名 4月24日実施)

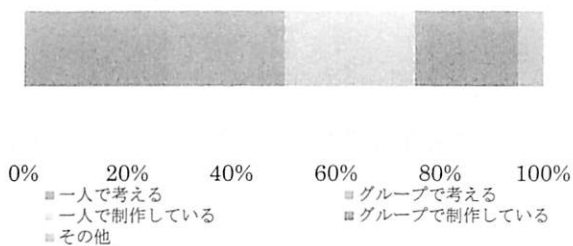
① 絵を描くことが好きですか



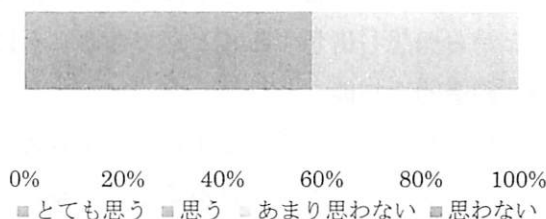
② 制作で最も難しい場面はどこですか



③ よいアイデアが浮かぶのは、学習のどんなときですか



④ 自分の作品を大切なもの（価値あるもの）だと思いますか



本学級の生徒たちは、明るく大変に活発で、自分の感じたことや思ったことを素直な気持ちで表現することができる雰囲気をもっている。美術の学習にも意欲的に取り組んでおり、88%の生徒が美術の学習に対して「とても好き」「好き」と回答している。絵画の分野に関するアンケート①の質問には、70%は「とても好き・好き」と回答しており、絵で表現することに意欲的である。一方、30%の生徒は「あまり好きではない・嫌い」と回答しており、その理由は、「見たままに描けない」「上手に描くことができない」という理由が多かった。本題材は、抽象的な表現であるので、そのような生徒の苦手意識を軽くするような指導にありたい。

学習過程に関するアンケート②で、制作の過程で困難を感じている場面は、「主題の設定」が26%、「アイデアの発想」が38%、「実際の制作」が31%、「作品の鑑賞」が5%であり、主題設定の場面やアイデアを考えるなど、発想することに難しさを感じていることが分かった。

発想が促される場面に関するアンケート③では、「個人で考える・制作している」「グループで考える・制作している」ともに同じくらいの結果であった。個人を選ぶ理由としては、「一人のほうが集中して考えたりつくることができる」、グループを選ぶ理由としては「いろいろな意見を聞けば、自分では考えつかないようなアイデアを考えることができる」という理由が多かった。また、グループ活動に消極的な生徒の理由として「グループで考えると、たくさんの意見が出てまとまらず、結局どのアイデアがよいアイデアなのか分からなくなる」という意見も複数あった。このことより、協働的な学習を想定している本題材においても、個人でじっくりと考えて制作する時間を十分に設定する必要があることが分かった。また、グループ活動においては、グループでの発想の抜け方、まとめ方を学ばせる必要があることが分かった。

自分の作品に関するアンケート④「自分の作品は大切なもの価値あるものだと思いますか」の質問には、40%の生徒が「あまり思わない」と回答した。このことは、美術・図画工作への興味・関心の高さとは対照的な結果であり、自分の表現に対して満足感が少ないのではないかと考えられる。これらの生徒の実態を意識しながら、アイデアをよりよく拡げていく方法を学習させ、自分の思いがこもった作品になっていく喜びや共同でつくり上げていくことの楽しさを感じ取らせ、満足感を味わわせるような授業づくりをしていきたい。

4 題材の指導目標

(1) 美術への関心・意欲・態度

形や色彩がつくり出すイメージや感情を基にした抽象表現に関心をもち、協力して制作しようと

している。

(2) 発想や構想の能力

メロディーを聴いて浮かんだことを抽象的な形や色彩のイメージや感情で捉え、想像力を働かせながら発想し構想することができるようにする。

(3) 創造的な技能

材料や用具の効果的な生かし方を考え、自分のイメージする形や色彩に近づけるように創意工夫して表現することができるようにする。

(4) 鑑賞の能力

自分の作品に対する思いや考えを説明したり、互いの作品を鑑賞したりして、それぞれの表現のよさや美しさを幅広く味わうことができるようにする。

5 題材の評価規準

	ア関心・意欲・態度	イ発想や構想の能力	ウ創造的な技能	エ鑑賞の能力
題材の評価規準	メロディーなどの目に見えないものから形や色彩をイメージすることに興味をもち、形や色彩を用いて構成している。また、協力しながらよりよい表現をしようとしている。	メロディーから浮かんだイメージを形や色彩を生かしながら発想を拡げ、構成を創意工夫して構想を練っている。	材料や用具の効果的な生かし方を考え、自分のイメージする形や色彩に近づけるように創意工夫して表現しようとしている。	自分の作品に対する思いや考えを説明したり、互いの作品を鑑賞したりして、それぞれの表現のよさや美しさを幅広く味わおうとしている。
時	学習に即した評価規準及び生徒への手だて			
1 (本時)	① メロディーからイメージを膨らませ、意欲的に形や色彩で表現しようとしている。 (生徒の反応) (作品) [C: 声かけを行い、生徒のつまずきを解決する。] ② 自分の思いや考えを伝えながら、協力して制作をしようとしている。 (活動の様子) [C: 話し合いの視点を与える。]	① メロディーを聴きイメージした形や色彩を思い浮かべている。(作品) [C: 何度もメロディーを聴かせ十分にイメージをもたせる。] ② 様々な形や色彩の組み合わせを試している。 (生徒の様子) [C: 色彩と形がもたらす感情の変化に気づかせる]		① 自分の作品について制作の意図を根拠をもって説明することができる。 (生徒の様子) [C: 形や色彩の意味を振り返らせる。]
2	③ メロディーから想像したイメージと形や色彩の関係を意識しながら協力して制作している。(生徒の様子) (作品) [C: メロディーを何度も聴かせる。]	③ メロディー全体のイメージから、全体的に調和のとれたアイデアを発想している。(生徒の様子) (作品) [C: リーダーからの問いかけを意識させる。]	① 自分のイメージに合った色彩を選び、形を工夫しながら制作している。 (生徒の様子) (作品) [C: イメージについて確認し、言葉に置き換えさせる。]	
3				② 各グループの作品を鑑賞し、メロディーからのイメージを照らし合わせ、よい点や工夫された点を自分なりに感じ取り、自分の価値意識をもって批評している。 (生徒の様子) (ワークシート) [C: 自分の作品と比較させながら考えさせる。]

※ 単位時間の評価規準については「おおむね満足できる：B」とする場合の規準とする。()は、評価の対象、[C:]はBに到達しない生徒への手だてとする。

6 題材の指導計画

(1) 本校の研究内容との関連から（教科論文、本時の手だてとの関連）

研究の視点Ⅰ

教科論 コミュニケーションの活性化を目指した題材設定の工夫・・・・・・・・・・6-(2)-ア
メロディーのパートごとに作品を持ち寄り、ひとつの作品へとまとめさせる。ひとつの作品にまとめる過程の中で、価値意識を形成させ、自分なりの見方・考え方を抜け深められるようにする。

研究の視点Ⅱ

教科論 知的コミュニケーションを活発にする工夫・・・・・・・・・・6-(1)-イ
グループにリーダーを設定し、より発想を抜けやすくさせる。その際、リーダーはランダムに選ぶこととし、発想を拡げるための発問の仕方や意見をまとめる方法を参考にさせながらリーダーを育成する。

研究の視点Ⅲ

教科論 発想を拡げる拡張・焦点化発問の工夫・・・・・・・・・・6-(1)-ア-(ア), (イ)
グループでの活動の場面で、具体的な発問例を用いることによって、円滑で活発な活動になるようにする。そして、互いのアイデアから発想が拡がり、新たなアイデアへとまとまっていけるようにする。

(2) 指導計画（全3時間：本時1／3）

時	学習内容	指導上の留意点
1 (本時)	1 参考のメロディー鑑賞し、感じ取ったことを発表する。 2 学習課題を理解する。 3 メロディーのイメージを言葉で表現させる。 4 材料や道具の基本的な使い方について理解を深める。 5 様々な色や形を試しながら作品づくりの構想を練る。 6 それぞれの作品を持ち寄り、ひとつのメロディーにつなげる。 7 他のグループの作品を鑑賞する。 8 作品について再度話し合う。 9 本時の学習を振り返り、自己評価を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目を閉じてメロディーを聴かせる。 ○ メロディーから<u>感じ取ったことを形や色で発表させる。</u> ○ 課題のメロディーを形や色を思い浮かべながら聴かせる。 ○ 頭に思い浮かんだことを書き出させ、イメージを<u>拡げさせる。</u> ○ メロディーを聴く場所や機材の使い方、材料の使い方について説明する。 ○ イメージを大切にさせながら、<u>色や形のもつ感情を意識させ、様々な表現に挑戦させる。</u> ○ 自分の作品について根拠をもって説明させる。 ○ リーダーを中心に意見交換をさせ、メロディー全体のイメージにまとめさせる。 ○ リーダーに作品を説明させ、他のグループの作品を鑑賞させる。 ○ 他グループの作品や意見を参考にして、さらによくなるように話し合わせる。 ○ 本時の学習で学んだことを自分なりの言葉でまとめさせる。
2	10 前回つくった作品をメロディーと一緒に鑑賞し、作品づくりの見直しをもつ。 11 グループで話し合いながら作品を作り込む。 12 作品を台紙に貼り完成させる。 13 作品についての解説文をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>メロディーと作品と一緒に鑑賞させ、各グループで作品づくりの見直しをもたせる。</u> ○ <u>形や色彩のもつ感情について再確認させる。</u> ○ イメージを確認しながら、丁寧に作品を完成させる。 ○ 構成を試行錯誤しながら固定させる。 ○ 作品のイメージを言葉で丁寧に見つめ直させることで、作品の再言語化をさせる。

3	14 グループごとに作品を発表し、互いの作品のよさや工夫について自分なりの言葉でまとめる。 15 自己評価を行う。	○ <u>形や色彩から受ける感情</u> を相手に伝わるように発表させる。 ○ <u>自分なりの根拠をもって鑑賞させ</u> 、作品についての自分なりの言葉でまとめさせ、価値意識をもたせる。 ○ <u>学習を振り返らせ</u> 、感想を発表させる。
---	--	--

※ 下線部は共通事項に関する内容

7 本時の実際（1 / 1）

(1) 指導目標

- ア メロディーからイメージを膨らませながら意欲的に形や色彩で表現するようにする。
【関心・意欲・態度】
- イ 自分の思いや考えを伝えながら、積極的に協力して制作するようにする。
【関心・意欲・態度】
- ウ 思い浮かべたイメージを様々な形や色彩の組み合わせを試しながら発想を拡げることができるようにする。
【発想や構想の能力】
- エ 自分の作品について制作の意図を、根拠をもって説明することができるようにする。
【鑑賞の能力】

(2) 準備するもの

- ア：教科書、美術資料、参考作品、音響機器、色画用紙、はさみ、カッター、カッターマット、発問カード、ワークシート、スチレンボード
- イ：教科書、美術資料、ArtWorks、筆記用具、鍵盤ハーモニカ

(3) 本時の展開

過程	時間	学習の内容	形態	指導上の留意点
導入	7	<p>はじまり</p> <p>1 参考のメロディーを鑑賞し、感じ取ったことを発表する。</p> <p>作品の鑑賞 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 暗い音楽だな ・ 明るいイメージの曲だな ・ 色で例えるとオレンジ色かな 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目を閉じて参考のメロディーを聴かせる。 ・ ベートーヴェンの「運命」、その他 ○ メロディーから感じ取ったことを形や色に例えて発表させる。
		<p>2 学習課題を理解する。</p> <p>学習課題及び今日の目標の把握 2</p> <p>学習課題： イメージを「色」や「形」で表現し、グループのメロディーに合った絵をつくらう</p> <p>今日の目標：メロディーのイメージを色や形にしてみよう</p>	一斉	<p>研究の視点Ⅰ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれの作品をグループで組み合わせ、ひとつの作品にすることを理解させる。 ○ 各グループのメロディーを演奏させ、曲のイメージを再確認させる。
		<p>3 3 メロディーのイメージを言葉で表現させる。</p> <p>言語化 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 爽やかなイメージだったな ・ リズムのいい感じだったな ・ 疲れた感じだったな 	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 頭に思い浮かんだことをできるだけ言葉にし、イメージを拡げさせる。
		<p>4 4 材料や道具の基本的な使い方について理解を深める。</p> <p>制作方法の把握 4</p>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ○ 色紙や台紙を自由に使ってよいことを理解させ、イメージの拡がりを妨げないようにする。 ○ 切るだけでなく、破く、折る、丸めるなどイメージに合った使い方をしてよいことを理解させる。
展開	27	<p>5 5 様々な色や形を試しながら作品づくりの構想を練る。</p> <p>個人制作 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ やさしい感じだから、うすいピンク色にしよう ・ 力強い感じだから、ゴツゴツした形にしよう ・ リズムのいい感じだから、飛び跳ねるように並べてみよう 	個別	<p>【制作のポイント】 メロディーのイメージを「色」「形」「配置」で表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 色や形、配置を何度も確かめながら制作させるようにする。 ○ イメージを大切にさせながら、色や形のもつ感情を意識させ、様々な表現に挑戦させる。
		<p>6 6 それぞれの作品をつなげ、ひとつの作品にする。</p> <p>グループ制作 6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どんな順番がいいかな ・ メロディー全体のイメージと合うかな ・ この部分は、もう少し形を大きくしたほうが合うのでは 	グループ	<p>研究の視点Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ リーダーを中心にメロディーと作品を比較させながら意見交換をさせる。 <p>研究の視点Ⅲ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ リーダーに視点を与え、メロディー全体のイメージをまとめさせる。
		<p>7 7 他グループの作品を鑑賞する。</p> <p>外部交流 7</p>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちの作品と比較しながら鑑賞させる。
終末	3	<p>8 8 作品について再検討する。</p> <p>再検討 8</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あまりうまく伝わらなかったな。もっと工夫しよう。 ・ 他のグループのあそこがよかったから、参考にしよう 	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他グループの作品や意見を参考にして、さらによくなるように話し合わせる。
		<p>9 9 本時の学習を振り返り、自己評価を行う。</p> <p>振り返り 9</p>	個別	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習で学んだことを自分なりの言葉でまとめさせる。
		<p>おわり</p>		